

令和元年 5月 市長定例記者会見

2019年 4月26日(金)

午後 1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 では、定刻となりましたので、ただいまから5月の市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと存じます。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、ご質問の際は、お手数でございますがご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、質問後はお切りいただきますようご協力よろしくお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願い申し上げます。

【市長】 では、5月の定例記者会見です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず最初に、選挙を無事に当選いたしまして、2期目の負託をいただきました。またこの4年間、精いっぱい努力していきたいと思っておりますし、1期目以上の2期目につながるように市の職員と力を合わせていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 事業発表につきましては4つございます。

1つ目は、おくのほそ道330年の「夏井いつき句会ライブ」の開催ということでございます。

今年は、俳聖松尾芭蕉が、おくのほそ道の旅で敦賀を訪れてから330年を迎えます。本市ではこれを記念いたしまして、「杖措きの地 敦賀」を広くPRするとともに、多くの方に俳句に親しんでいただくため、人気テレビ番組でおなじみの俳人・夏井いつき氏による句会ライブを開催いたします。

このほかにも、おくのほそ道330年を記念し、博物館での特別展や全国俳句大会等のイベントも企画中です。

詳しくは資料をご覧くださいと思います。

2番目ですけれども、第37回「親子のフェスティバル」の開催についてでございます。

親子の触れ合い、仲間との触れ合い、地域との触れ合い、自然との触れ合いを通じて青少年の健全育成を図ることを目的に、5月19日日曜日午前9時から午後3時まで、きらめきみなと館とその周辺において第37回「親子のフェスティバル」を開催いたします。

今年も触れ合いをテーマとして、働く車や船舶の一般公開など体験型のイベントとなっております。また、今年敦賀港開港120周年を記念して海上自衛隊舞鶴音楽隊の演奏会も予定しており、親子で1日楽しめる内容となっております。多くの方々のご来場をお待ちしております。

詳しくはお手元の開催パンフレットをご覧くださいと思います。

それから3つ目ですけれども、市民総ぐるみ環境美化運動・クリーンアップふくい大作戦、一斉拠点活動「気比の松原クリーンアップ」についてであります。

6月の環境月間に合わせまして、美しい自然環境や住みやすい生活環境の保全のため、市民総ぐるみ環境美化運動・クリーンアップふくい大作戦を実施いたします。各地区や事業所等で清掃活動にご協力をお願いいたします。

また、クリーンアップふくい大作戦の一環として、市民一人ひとりの環境への関心を深め環境保全活動への積極的な参加推進を図るため、敦賀の観光名所である気比の松原周辺において一斉清掃活動を実施いたします。多くの市民の皆様のご参加をお待ちしております。

日時は、令和元年6月2日日曜日8時半から10時半ということになっております。どうぞよろしくお願いいたします。

それから最後ですけれども、クールビズの実施についてでございます。

平成17年より毎年実施しておりますクールビズにつきましては、節電の必要性等を踏まえ、5月1日水曜日から9月30日月曜日までの実施ということでさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

発表項目は以上です。

**【秘書広報課長補佐】** それでは、ただいま発表いたしました項目についてのご質問をお受けしたいと存じます。最初に幹事社さんから、よろしくお願いいたします。

**【記者】** いずれの発表も平成31年になっていきますが、多分、令和元年になると思いますので、以後気をつけていただければと思います。

**【市長】** 気をつけます。

**【記者】** おくのほそ道330周年なんですけど、国名勝の指定も気比神宮は受けていまして、そこらの絡みで他県との連携をしながら観光誘客というのは330周年で考えられるかなと思うんですが、その辺について考えがあったら教えてください。

**【市長】** おくのほそ道330周年ということで、このパンフレットに載っておりますけれども、今の句会ライブからスタートしまして、博物館の『おくのほそ道』330年の旅ということと、第16回芭蕉探訪ウォーク、そして図書展示、全国俳句大会、素龍本の販売というのもやっておりますが、大垣とかほかのところとの連携ということも考えておりますので、その辺は教育長のほうからよろしいですかね、担当のほうから。

**【文化振興課長】** 他市との連携というところにつきましては、おくのほそ道の関連の市町で組織する奥の細道サミットというのがございまして、これは大垣市が音頭を取ってやっているんですけども、そこで今年度、330年の記念事業ということで、ホームページの開設であったりとかスタンプラリーとか、お互いの市でやる事業の紹介とか、そういったことを今年度の事業として行うことになっておりますので、そういったところで他市との連携というところを図っております。

**【秘書広報課長補佐】** それでは、同じく幹事社さん、よろしいですか。

それでは、各社お伺いをさせていただきます。発表項目につきまして質問がございましたら挙手のほうをよろしくお願いいたします。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進みたいと思います。こちらも幹事社さんから、よろしくお願いいたします。

**【記者】** 今日は改めまして、2期目の初登庁ということで、改めて登庁されて今のお気持ちをお聞きして、2期目の抱負を改めてお聞きしたいなど。

【市長】 1期目の公約というのがあって、着手率100%も達成することができましたけれども、まだ道半ばの事業もたくさんありますので、それらを2期目については達成していくというのが大きな目的になってくるというふうに思っています。また、その中で、今回、公約の中で新しい部分もありますので、そういうところも含めて前に進めていきたいと思っています。

一つは、子育て環境日本一ということを広く発信しながら、その中で敦賀に人道の港とかそういうところで来ていただいたり興味を持っていただいた方が、働く場所プラス子育て支援をしているということで、住みたくなるようなまちということをイメージできたらなということのを思いながら進めようとしております。ですから、敦賀市のイメージとして優しい市民性ということを定着させながら子育て環境をアピールしていくというのが一つの方向性かと思っております。

【記者】 関連で、人口が県内77万人を切ったという報道もありましたけれども、敦賀市を見ても6万5000人を切ったという状況で、人口減少はなかなか喫緊の課題だと思うんですが、今おっしゃるようなことをやっていくということですが、スピード感を持ってやる必要があるかなと思うんですが、そこらを改めてお伺いしたい。

【市長】 そうですね。人口減少については全国的な課題としてあると思いますけれども、その中で、敦賀市の中で人口を増やしていこうというのは一つ難しい状況にあると思いますので、敦賀にご縁があって外にいる方とか、また敦賀という都会に近い自然豊かな場所とか市民性とか、そういうことで敦賀に興味を持っていただく人たちをよそから取り込んでくるというか招いてくるというのがもう一つの大きなベクトルとして必要だと考えておりますので、この4年間で企業誘致とか子育て支援の環境というのがかなり整ってきましたから、あと発信していった実際の実績につなげていくということが大事だというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いさせていただきます。ご質問がありましたら挙手のほうをよろしく願いいたします。

【記者】 おとついな、原子力規制委員会のほうが、特重（特定重大事故等対処施設）ですね。あの施設が間に合わない場合は発電所をとめるというか、期限を区切りますよというふうな話が出ました。該当の発電所としては、敦賀市内にはありませんけれども、原子力立地自治体の首長さんとしてでも全原協の会長さんとしてでも構いませんけれども、そのあたりはどういうふうにあの発表というか決定というのを受けとめられて、どのように今後していこうというふうにお考えなのか聞かせていただけますか。

【市長】 大変難しい話だと思っておりますけれども、5年の猶予ということで、猶予自体は一旦、事業所自体も認めていたと聞いていますので、その中でできなかったというところは、やっぱり甘い部分があったんだろうなということをおもいますが、じゃ実際問題、国力として、またエネルギー政策の経済的な問題として一律5年でストップといったときに、全部の今の発電所がかかるわけですから、現実的じゃない話なんだろうなと思っています。

その中で、約束したからとか言った言わんじゃなくて、どこかで落としどころというのを考えながら政策というのは進めるべきだと思っておりますので、その辺をどういうふう判断されるのか。むしろ国のほうがそれに対してどういうアクションをされるのかなとい

うことを懸念していますけれども、私どもとすると、まだどうする方向性ということは決まっていますが、5年という期限を決めたこと自体が根拠のない数字ですので、じゃ、もう少し待ってもいいんじゃないのみたいなところがあるんじゃないかなということだと思いますが、その辺はコンセンサスをとりながら進めていきたいと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 2点、確認なんですけれども、先ほどのお答えというのは立地自治体の首長としてですかね、それとも協議会の会長としてのお言葉だったのでしょうか。

【市長】 立地自治体の首長としてですよね。全原協の会長としては、コンセンサスがまだとれていませんので、どういう方向性ということは当てていませんので、今の時点では。

【記者】 わかりました。

もう1点。ちょっと話が変わるんですけれども、先ほど着手率100%を達成して新しい部分を進めていくというお話がありましたが、現時点で、庁舎の組織を再編されるだとか、そういったことのご検討というのはされていますでしょうか。

【市長】 一応今日が初登庁という話になっておりますが、一部さわる部分はあると思います。ただ、今どこをどうさわるということは決めてないです。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【記者】 先ほどの、これまで人が優しい敦賀という優しさをアピールしていくということとを強調されていましたが、私ども言葉で伝える場合は、人が優しい敦賀を伝えるというふうに書くんですが、具体的に、このやっていき方というのはいろいろあるかと思いますが、実際はなかなか難しい。そこら辺はどう具体的にやっていかれるのかなというお考えはどうなのでしょう。

【市長】 優しさというのは、ユダヤ難民とかポーランド孤児を受け入れたときの史実に基づいた敦賀市民の優しさというのがあると思いますし、それは敦賀だけではなくて日本人全体につながっていくものだと思いますけれども、そういう市民性がありましたよということ発信するというのと、もう一つは、敦賀の人が優しいんですよということを市民の皆様にごやうって言うことで、たくさんのお客さんが来るので、おもてなしをしてくださいねと言われると、どうしたらいいかわからない。でも、優しい市民性があるんだから、にこっと笑えばいいんですよと言うと、何となく安心して対応ができるとその辺を上手にできたらなと思っていますし、よそから来た観光客の人たちにとって、敦賀のそういう史実に触れたり人柄に触れたときに、物を買うだけでなく、そういう会話といいますか、にこっと笑ってくれたとか、よう来たねとかそういうことを言ってくれたというのが一つの思い出になっていくと思いますので、そういうことをつなげることができたら観光地としての敦賀というのは成功していくんじゃないかと思っていますし、敦賀の市民性というのもそこで優しさが増していくんじゃないかなというふうに思います。

いいですか。書きにくいですか。

【記者】 いやいや。来られた方に対する対応の優しさということで広がっていく。そこら辺はうまくいけばいいなと思うんですが、まず来てもらうためにどう伝えるのか。その優しさ、敦賀はこういう歴史がありますよは発信、当然されていくと思うんですが、具体的にどのように伝えられるのかなというのがなかなか。またこれからいろいろとされていくのかと。

【市長】 今までやってきたものといいますと、リング型のタオルをアピールしたりとか、またインバウンドの方たちにミュージアムのことを紹介したりとか、そういうことの繰り返しになっていくと思います。爆発的にはなかなかできないことかと思いますが、プレ国体、国体に来られた方たちにも、ぜひ敦賀の優しい市民性に触れて帰ってくださいねということはお伝えしていますので、そういうところの繰り返しになってくるんじゃないかと思います。

【記者】 今、市民性というお話が出たので関連になりますけれども。2期目、今日登庁されて、これから多分予算を組まれると思うんですけれども、それはやっぱり、さっきおっしゃっていましたが、新しい部分というのを前に進めたり、市民性の発信だったというようにところに重点を置いた予算というように考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 優しい市民性というか、人道の港についての発信する予算は持とうと思っています。

【記者】 あともう一つ。時期的にいうと、6月議会に出してという感じで進めるということになりますか。

【市長】 はい。そうですね。

【記者】 原発の、先ほどのテロ対策施設の期限内にできないという話なんですけど、国がどういうアクションを起こすのか見ていくというお話だったんですが、これはあくまで経産省側というか政府側がどういうアクションを起こすのかということで見ているということですか。

【市長】 そうですね。原子力自体は国策でありますし、エネルギー政策でもありますので、福島事故があって長い間とまっていますから、その中で、原子力がとまっているかわりに石油とか石炭を買ってということを見ると、国の豊かさからすると十数兆円の損失があるわけなんです。ですから、今これをとめることに対して経済的損失があるんだということは明確ですので、その辺を国としてどう考えるのか、エネルギー政策をどう考えるのかというのは非常に大事な部分だと思います。

【記者】 あともう1点。全原協としてこれからコンセンサスを取りながら進めていくという話かと思いますが、全原協で話し合った上で、その先に規制委員会に例えば何か要請するのか、それとも政府側に要請するのかということはまだ全然決まっていないのか。

【市長】 そうですね。まだ決まっておられませんし、各自治体で、事業者自体の計画の甘さということ認識していらっしゃる自治体もありますので、そうすると一概に規制委員会におかしいだろうということは言いにくいかなということもありますので、これから決めていくことになると思います。

【秘書広報課長補佐】 ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして5月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後1時52分 終了